

自治会アンケート 2017 結果報告(概要版)

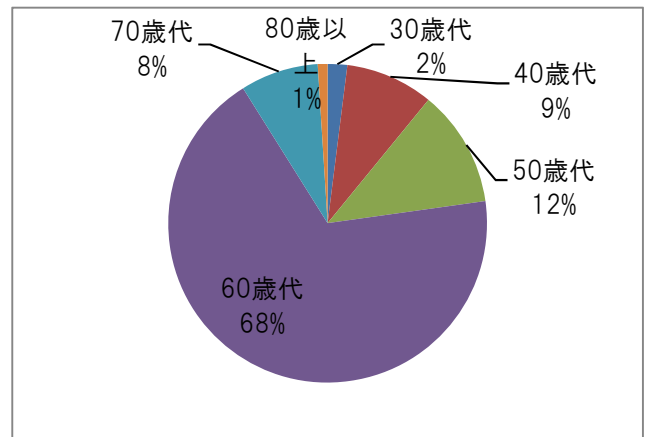
地域振興部

目的：自治会の現状と課題を把握し、今後の取組について考えること
実施：平成 29 年 6 月
対象：自治会長
回答：101 自治会/全 107 自治会（回収率：94%）

1 自治会長について

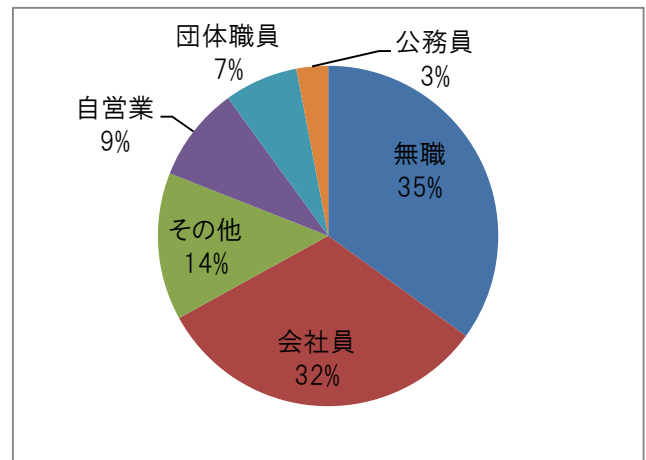
■年齢

- ・自治会長の年齢は、**60 歳代**が一番多く約 7 割で、**50 歳代**と合わせて 8 割となる。
- ・**30 歳代**、**40 歳代**の自治会長は、全体の 1 割程度であり、新しい自治会に多い。



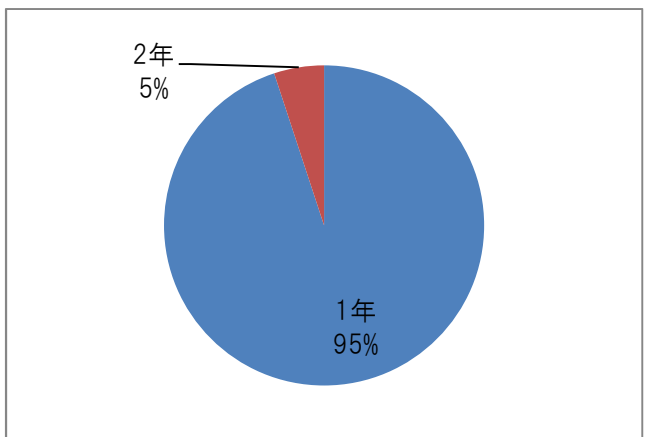
■職業

- ・自治会長の職業は、**無職**が一番多く、35%となっている。
- ・先の設問で 60 歳代以上が 8 割近くある一方で、無職が 35%となっていることから、何らかの形で仕事をされている方が多いことがうかがえる。



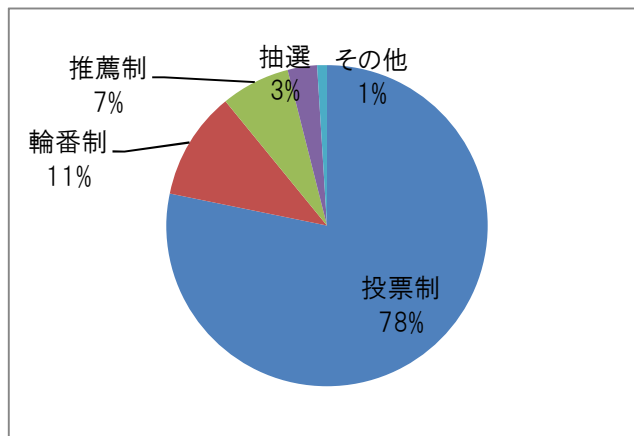
■任期

- ・自治会長の任期は、1 年間としているところがほとんどとなっている。
- ・副自治会長を務めた後に自治会長に就任することで、事務引継ぎがスムーズになるように工夫されている自治会もある。



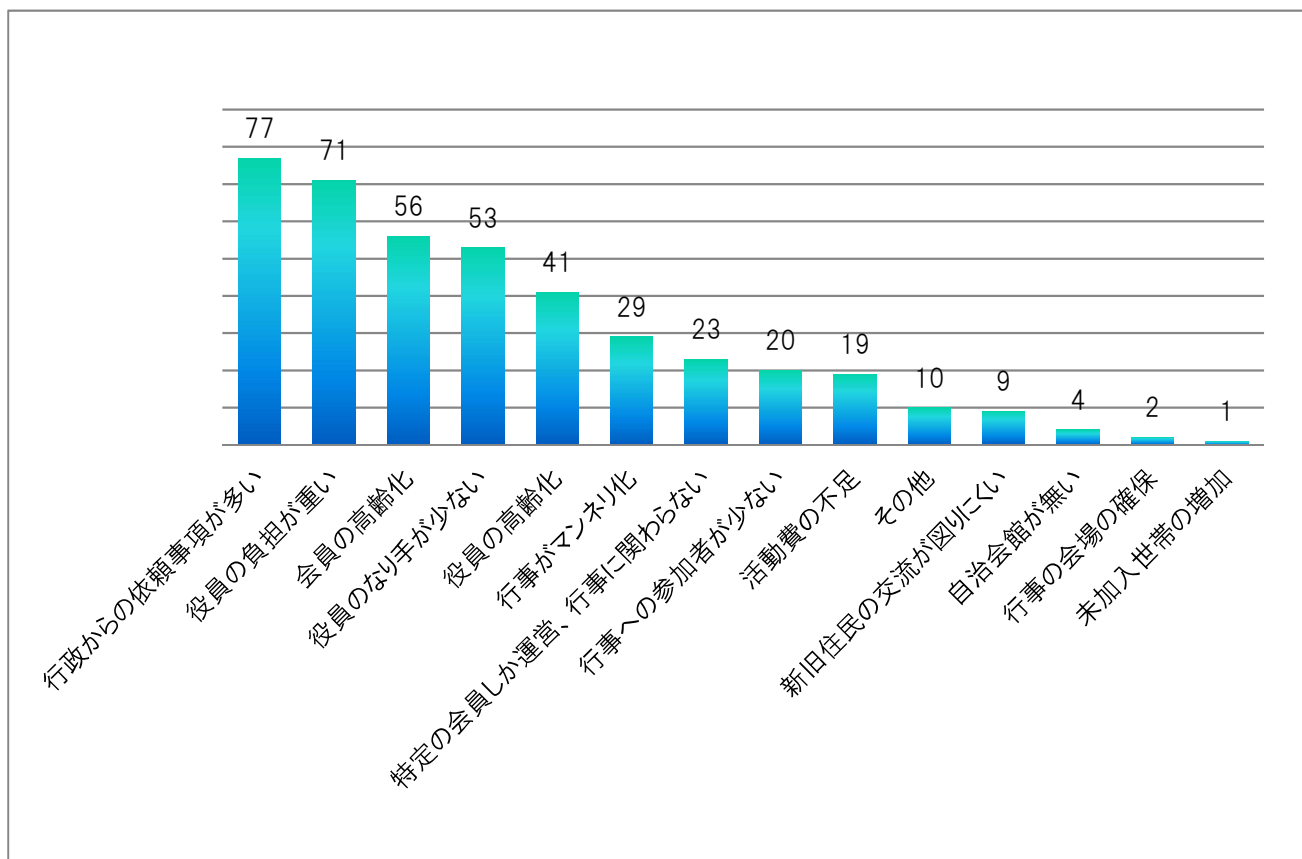
■ 選出方法

- ・ 自治会長の選出方法は、**投票制**により決められる自治会が8割となっている。



2 自治会運営上の課題について

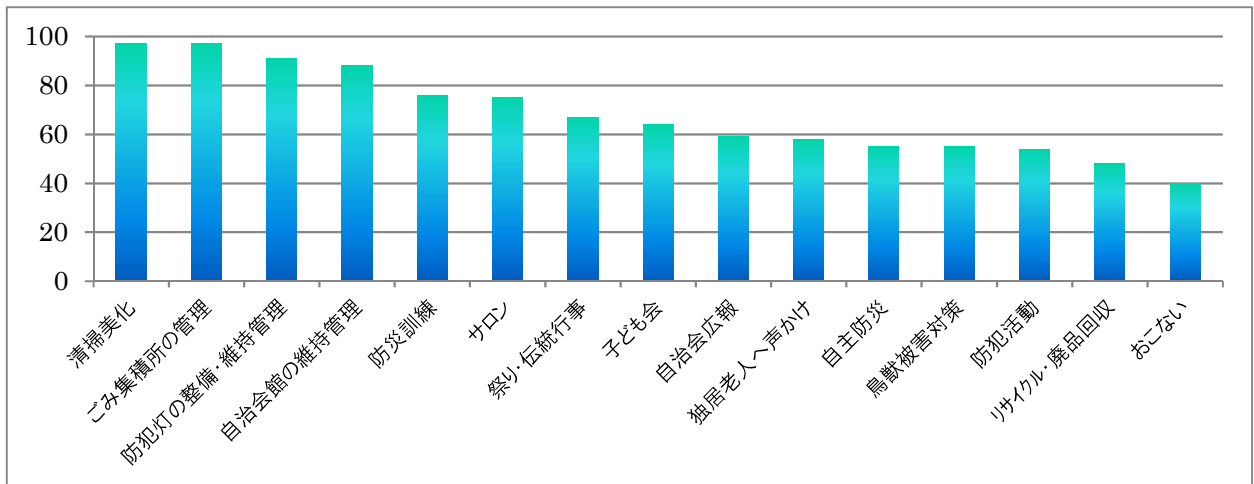
- ・ 自治運営上の課題について、**行政からの依頼事項の多さ**（1位）と、**役員負担が重いこと**（2位）の間には相関関係があると考えられる。
- ・ 自治会運営においても、高齢化および人口減少の影響から、**住民や役員の高齢化**（3位、5位）や**担い手不足**（4位）の状況を招いている。
- ・ 一方で、自治会行事については、**マンネリ化**（6位）、**特定の住民しか関わらないこと**（7位）が問題視されている。



3 自治会の活動・事業について

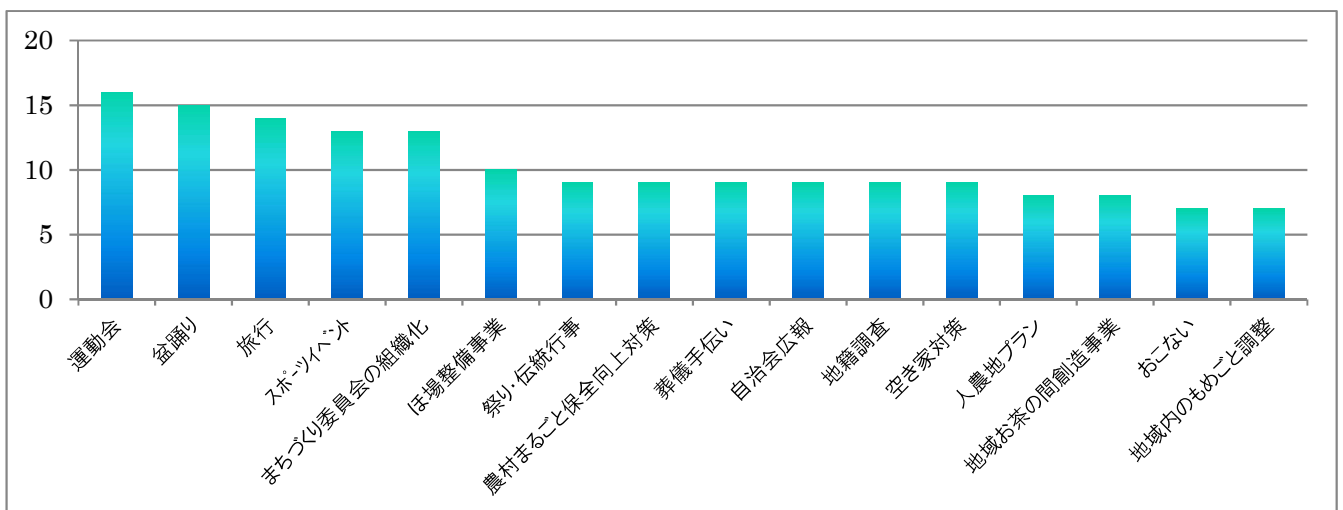
■実施中の活動・事業

- ・地域内の清掃・美化活動、ごみ集積所の管理、防犯灯の整備・維持管理など生活に身近な活動に取り組まれていることがうかがえる。
- ・サロン、独居老人へ声かけなど高齢者に向けた取組も実施されている。
- ・祭り・伝統行事、おこないなど古くから伝わる行事にも継続的に取り組まれていることがうかがえる。



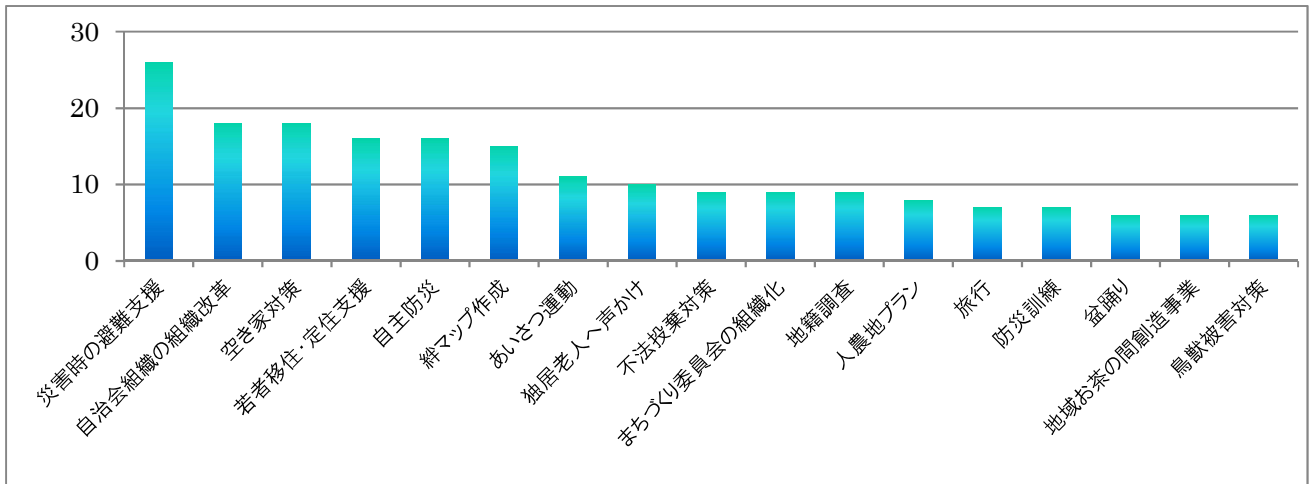
■縮小・廃止したい活動・事業

- ・運動会や盆おどり、旅行など多くの地域住民が参加出来るイベント・行事の縮小、廃止を思慮されている自治会が多い。
- ・昔とは住民意識が変化していく中、長く地域で継続して実施されているイベント・行事に対する意識も変化していることがうかがえる。



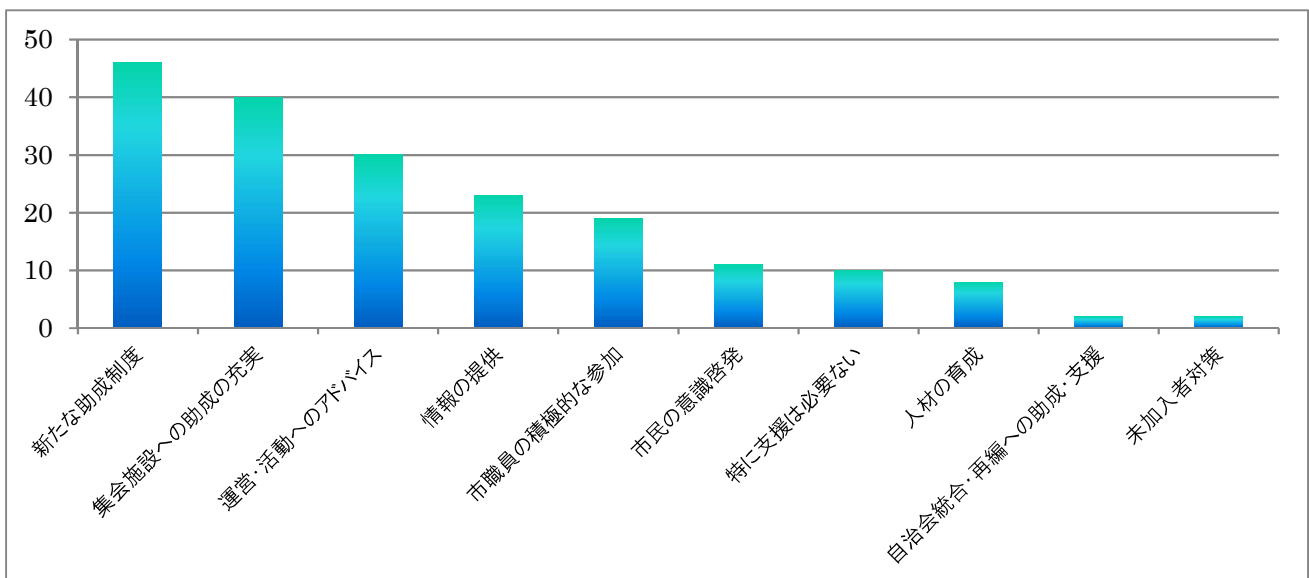
■実施したい活動・事業

- ・近年の天候不順により、風水害等の災害対応が地域でも求められることから、災害時の避難支援、自主防災、絆マップ作成、防災訓練などの災害に備えた活動を挙げておられる。
- ・自治会組織の組織化改革やまちづくり委員会の組織化などの自治会組織の見直しも必要であるとの認識も高まっていると考えられる。
- ・各地域内で問題となっている空き家対策や若者移住・定住支援など、少子高齢化が進む地域では取組を望む声が多く見られた。



4 市からの支援について

- ・自治会が望む市からの支援については、自治会活動に対する新たな助成制度、集会施設への助成の充実などの財政的な支援を望む声が一番多かった。
- ・運営・活動に対するアドバイス、情報の提供（先進事例の紹介等）、市職員の自治会活動への積極的な参加といった人的支援について、市からの積極的な対応が求められている。



考察

- ・年金受給年齢の引き上げにより、自治会長さんも仕事を持ちながら、自治会運営を行っておられるようである。
- ・自治会長の任期は1年間としている自治会が圧倒的に多く、まちづくり活動の継続性の問題に直結してくるものだと考えられる。継続性を補完するような組織や体制整備が必要である。
- ・自治会運営上の課題として、一番多かったのは「行政からの依頼事項の多さ」であった。このことは、市役所全庁的に再点検、見直しが必要である。
- ・自治会の実施したい活動・事業としては、防災に関する活動が多く挙げられた。自治会のニーズをふまえた行政の対応が必要である。